

サステナブルコンソーシアム北海道

# 第1回 流通合理化勉強会 実施報告

～ 水産物流の課題と効率化 ～

2026年5月29日（金）、サステナブルコンソーシアム北海道は「第1回 流通合理化勉強会」を開催しました。深刻化する物流の「2024年問題」を背景に、水産物流の課題と効率化をテーマに掲げ、有識者を招いて講演と意見交換を行いました。

## 開会挨拶

開会にあたり高橋会長より挨拶があり、「2024年問題」が既に現実化し遠隔地でのドライバー不足や輸送制約が深刻化していること、資材コストの高騰や氷・容器の統一化に向けた動きなどに触れたうえで、本勉強会を水産業の復活に向けて多様な業界の知見を集めながら継続的に取り組む場として位置づけると述べられました。

## 講演① 水産物流の効率化・標準化に向けた実証事業

株式会社ドーコンの西田氏より、北海道経済産業局からの受託事業として実施した水産物流効率化の実証事業の報告がありました。ドライバーの高齢化や帰り荷のない片荷輸送、荷姿の不統一を背景に、オホーツク地区での一次集約・共同配送を検証した結果、燃料費・CO<sub>2</sub>排出量ともに約50%削減の効果が見込まれ、今後は荷姿の標準化や送り状の電子化、業界横断の共同配送を目指す方向性が示されました。

なお、アドバイザーの相浦教授（北海道商科大学）より、産地・荷主・物流事業者による早期の三者協議の必要性等について助言がありました。



## 講演② 日本貨物鉄道（JR貨物）の取り組み



日本貨物鉄道（JR貨物）の西川氏より、貨物鉄道を活用した輸送効率化の取り組みが紹介されました。鉄道はトラックに比べCO<sub>2</sub>排出量が約11分の1と環境負荷が低く、トラックやフェリーと連携する「モーダルコンビネーション」を推進。水産物は明治期から鮮魚輸送の実績があるものの、鮮度維持・冷凍対応や運行の安定性が課題であり、冷凍コンテナの整備を含め、ドライバー不足という社会課題を踏まえて積極的に検討していく意向が示されました。

## 意見交換

講演後、会場・オンラインの参加者を交えて活発な意見交換が行われました。荷役環境の改善、水産物と農産物等を組み合わせた業種横断の共同配送、札幌市場を拠点とした関東・関西への鉄道輸送、早朝に集中する商慣習・取引時間の見直しなど、幅広いテーマについて議論が交わされ、需要・供給・輸送が三位一体となって効率化に取り組む必要性が改めて共有されました。



コンソーシアムとしては、引き続きこのような勉強会を継続しながら、会員間の共通認識の醸成と知見の向上を進めてまいります。持続可能な水産物流の実現は当コンソーシアムが目指す課題の一つです。引き続き、活動へのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。